

## 第二 業務處理の概況

### 概説

昭和二十年十月十日廣島市宇品町に陸軍運輸部内に發足した中國上陸地支隊は開局以來官制機構も屢々改裝せられたが文局の處理した主要な業務は次通りである。

一 搬運部隊の上陸直後の復員事務の指導援助

二 搬運部隊の人事に関する事項

三 遺骨遺留品の整理保管及護送

四 兵諸調査業務

五 搬運軍人軍属の金銭給與の指導援助

六 復員船問に於ける業務指導

(11) 然して昭和二十年十月八日南大東島より下り龍谷上り龍谷第一船と

受入れより十一月、宇品、竹西港より受入れを開始す。復員船場も  
に進揚し昭和二十一年三月乃至五月は最高潮に達し約五〇〇〇人の受入業  
を遂行した。八月以降入港船数も漸次減少した。十二月末に片  
所鎖し爾後宇品港のみで業務處理に任じた。

戦后以來滿ニケ年、内は歴代支局長を中心とし和衷協力員に一体となつて各  
分掌業務に専念し、外は中部復員連絡局、廣島支那援護局、關條諸機關と協  
終戦後の社會的、經濟的不利なる條件を克服し、總へず今迄異境に苦惱し  
戦友を胸に描きつゝ、復員業務を遂行したのである。

此の期受入れた地區は主として南方地域であつて遠くは「マバウ」馬來  
ビルマより近くは沖繩、台湾、滿洲に亘り入港艦船延

二八二隻（日本船三四六隻、外國船三五隻） 復員陸軍軍人軍属 二九三六八七人  
遺骨 七六六〇柱 遺留品 一七二〇四梱 である。

復員業務改善の爲研究會同実施の状況は左表の通りである。